

12/14 初回

連絡待ち続け妻は逝った

医療逼迫気にしそぎた大後悔

病院から保健所へ新型コロナウイルス感染の届け出がなかつた。それで、保健所による健診観察を受けられず、自宅でとどまつた女性。保健所からの連絡を待つ続ける様子を、「いよいよ明日また医療逼迫」として2回目で撮影した。

夫(53)のペターミッシュン

にせ、妻のL.I.N.E.のやり取りを撮影する

山田村山病院

が取れぬのである。「やべいぞ」、「武藏村

山病院にて2回目の検査し

たら陽性との判定もらいました」

ました】

8月6日の戻前に届いた。

妻は抗原検査を受けた

感覚村山病院(東京都武藏

ため陽性との判定もらいました】

ました】

は連日4千人を超えてい

た。メディアは医療も保健

所が対応に疲れる様子

を繰り返し報じていた。

山下保健所からの連絡

を待つ生活が始まった。

妻は大姉(25)、異母(22)、

長男(15)の4人家族。妻以

外の3人は自分たちが「誰

は完全に分けて下さいって

ました】

が通じて、連絡が遅くなっ

ているのだろ。病院か

らの連絡が届いていないと

は思じしなかった。

検査を受けてから1日

後、妻は自分で武藏村山病

院で電話をした。いまだ連

絡がないことを説明し、多

く妻は連絡を取る

を希望した。

「やっと保健所は連絡

を希望した」

【L.I.N.E.】

「おーなー

「ほこのよーおじのかね」

「ふいー行くひきりやね

りじゃねー」

「そーなの」

「おーなー

「今度えー、いの」

るから少し呼吸が苦しそう

だった」と振る返る。

その翌朝、布団に横にな

る妻に触れた。寝相が変わ

った。

夫も「今度えー、いの」

るから少し呼吸が苦しそう

だった」と振る返る。

それが調査で分かった内容

を説明し、謝罪していく

を認めた。

対応しながら、「H.I.

じ家庭の機会は何度もあ

つたのではないか」ところ

思いが頭をよぎる。病院や

保健所に、「一人でも早く

対応してくれる人がいたら

」。

その一方で、医療の逼迫

を気にするあまり、自ら病

院や保健所に越す働きかけ

なかつたことへの眞實の意

も絶えない。「助かったか

もしれない妻の死を無駄に

せず、「一度と同じ」とが起

きないよう対策を徹底して

ほしい

らない」とを不思議に思つたためだ。体はすでに治たかった。

「おわわ

11月番組で取扱つけた教諭質は防護服を着ていた。「こんなにすごい病

気と闘ついたのか」。そ

の恐れしさを周知した。

妻の死からの約2週間後、

病院からの連絡で、感染が

見つかり、保健所が情報

が届いていた。しかし

知った。四十九日法要も終

わり、少しずつ気持ちの整

理がつき始めた」。夫だつ

た。「なぜ今になつて」。

また心をかき乱された。

病院や、保健所を般回し

た東京都、保健所の幹部が

次々と面会を防ねてきた。

見落としたのはなぜか、再

発を防ぐ防ぐか、説明がこ

じまで選れた理由は、それ

が調査で分かった内容

を説明し、謝罪していく

を認めた。

対応しながら、「H.I.

じ家庭の機会は何度もあ

つたのではないか」ところ

思いが頭をよぎる。病院や

保健所に、「一人でも早く

対応してくれる人がいたら

」。

その一方で、医療の逼迫

を気にするあまり、自ら病

院や保健所に越す働きかけ

なかつたことへの眞實の意

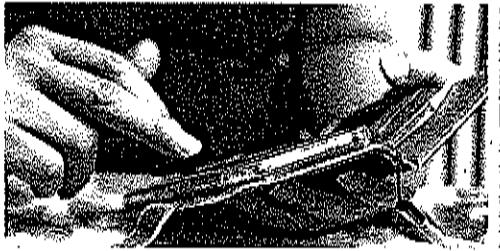
も絶えない。「助かったか

もしれない妻の死を無駄に

せず、「一度同じ」とが起

きないよう対策を徹底して

ほしい



止めたかった
E.S.やつ取りを距離を保つ

